

令和元年度第3回港区立学校図書館管理システム更新業務委託
事業候補者選考委員会会議録

会 議 名	令和元年度 第3回港区立学校図書館管理システム更新業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和元年5月13日（月曜日）午後1時30分から4時20分まで
開 催 場 所	区役所7階 教育委員会室
委 員	（出席者）5名 岩村委員、岡本委員、佐々木委員、篠崎委員、山本委員
事 務 局	学務課学校運営支援係
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 資料説明 3 二次審査 <ol style="list-style-type: none"> （1）事業者A （2）事業者B 4 採点結果集計 5 審査講評 6 事業候補者の決定 7 その他 8 閉会
配 付 資 料	<p>[席上配付]</p> <p>資料1 一次審査結果 資料2 二次審査について（タイムスケジュール） 資料3 審査基準【二次審査】（事業者A・B） 資料4 一次審査における質問事項について</p> <p>募集要項（再配付） 事業者からの提案書類（再配付）</p>

会議の結果及び主要な発言

A委員	【開会】 本日は二次審査を行い、事業候補者及び次点者を決定します。
事務局	【資料説明】 事務局から配布資料とスケジュールを説明。
事業者A	【二次審査】(1) <事業者Aのプレゼンテーションとデモンストレーション> <事業者Aのヒアリング>
C委員	他区の導入時期が同じ時期かと思うが、港区に対する体制が十分に取れるのか、不安はないのか、時期が重なることに憂慮はないですか。
事業者A	他区は新規導入で、稼働時期は来年4月予定のため、今年度中はバーコード貼りデータ登録の準備作業を行う予定です。 時期的にちょうどうまくずれていて、体制的に不安は全くありません。
A委員	パッケージそのものの品質に加えて、作業手順でサーバ保守の手順や移行等の人為的な品質はどんな感じですか。
事業者A	品質に関してはISOを取得しています。 作業チェックリストで必ず2人でダブルチェックで作業を行い、データのインプットアウトプットの件数はもちろん、データの中身もサンプリングしたものを評価して正しくやっております、品質は問題ないと考えています。
A委員	パッケージそのものの品質はどうでしょうか。
事業者A	弊社の出荷判定で出荷審査を受けています。 アプリケーションの脆弱性チェックも定期的の実施し、改善した上で出荷しています。
A委員	具体的に、たとえば不具合はほぼないとか、あってもこの程度とかは。
事業者A	1, 2件はありますが、2016年4月リリース以来、システムが停止するような大きな障害はないです。
A委員	操作性で問合せとか、こういうのが使いにくいとかありますか。
事業者A	バージョンアップ後はサポートデスクへの問合せがかなり減っています。 港区様は弊社が進級処理させていただきますが、以前は年度の変り目の時に各学校から問合せがかなり多かったのが、バージョンアップ後は減っており、操作性も向上していると考えています。

B 委員	ライセンス料の追加質問回答で、ライセンス数はバーコードリーダーが接続されたパソコン台数の掛け算とのことですが、同じ学校でバーコードリーダーを増やそうとすると追加になるということですか。
事業者 A	端末 1 台あたり 1 クライアントで算出しますので、端末が増える場合、1 台当たりの追加ライセンスをご契約いただきます。 ライセンスを増やす学校が増えてきています。
B 委員	保守について、ヘルプデスクで問合せ対応が年間 84 万円、年度更新に伴う進級処理がこの中に入っていると書かれていて、それとは別に学年更新作業があり、これは違うのですか。
事業者 A	ソフトウェア保守費に含まれているものは、ヘルプデスクの電話、メール、F A X での現地対応を含まない問合せ対応の費用です。
B 委員	進級処理等の年次業務でもきめ細かな対応を実施と書かれていますが。
事業者 A	通常ヘルプデスクに進級処理の件で電話をいただくことが多いのですが、今回、港区様へは我々が訪問して現地で年度更新の処理をさせていただきご提案をさせていただいております。
B 委員	するとヘルプデスクに進級処理を問合せすることはなく、どう考えてもだぶつていますよね。
事業者 A	一般的にはそういったものが含まれるということで、蔵書点検ですとか。
B 委員	それを除いたとして、さらに問合せがなかったとしたら。 ヘルプデスクは何人体制ですか。
事業者 A	3 名張りついています。
B 委員	問合せの必要がなかったら、もっと減らすことはできませんか。 明らかに電話で学年更新を問合せすることはなくなりますよね。
事業者 A	ヘルプデスクはメニュー化しており、ご利用されるかされないかの料金設定で、量でなく、一律のサービス価格です。
B 委員	ソフトウェア保守料もライセンス掛け算なのはおかしいですね、バーコードを減らせば減るのですか。
事業者 A	利用台数が減るとそれに対するソフトウェア保守料も下がります。 計算としてはそういう考え方です。
B 委員	単なる保守料で、運用費は別なので、台数で保守料が増えるのはどういう計算なのか根拠がわかりませんね、大きいのに。

事業者A	ソフトウェア保守料はパッケージの10%です。 今回はパッケージをお値引してはいますが、通常標準価格はパッケージ価格の年間10%が保守料とメニュー化しています。
B委員	ライセンス数掛け算なので割引は関係ないと思いますし、高い気がします。 移行費について、もし初めて導入するとしたら、倍くらいかかるのですか。
事業者A	他社からの移行で統計や履歴のデータまで含めると、いろいろなデータの持ち方をしているので、その場合の費用はもっと高くなります。
B委員	保守料は次回以降なので、もうちょっと必要なサポートをしていただく。 特に継続なのでスムーズにいくと思いますし、FAQがそろえば問合せが減っていくと思うので、それをまた考えてください。
事業者A	ありがとうございます。
C委員	デモンストレーションで、今日が5月13日、返す日が4月10日でした。 定義でいろいろなチェックがかかっているのか、品質的な問題があるのか、 年度が変わっても何も言わないのでは、と想像させます。 保守だけは値段が高いのに、と思うので聞かせてください。
事業者A	今の設定は固定返却日で、長期休みの前に貸し出しする際に返却日を固定化する機能をセットした状態のままでした。 通常は1週間で設定すると自動的に1週間後が返却予定日になります。 返却予定日と祝祭日がぶつくと自動的にその翌日にするチェック機能が働きます、失礼しました。
D委員	子どもたちが使いにくいとか、そういうのでトラブルは特にはないですか。
事業者A	見ていただいた画面のとおり、子どもたちは直感的に、自由に使っています。 検索も、従来の公共図書館の検索の画面とほぼ一緒で、感覚で使っていけるインターフェースになっています。
E委員	参考資料の導入実績に、センターサーバの導入事例が3つしかなく問題ないですか。 スタンドアローンとセンターサーバそれぞれの利点を教えてください。
事業者A	スタンドアローンはシステム自体が非常にコンパクトで安く導入できます。 反面、パソコンの管理を問題視されて、センターサーバやクラウドに移行されるお客様が近年増加しています。 弊社の実績は都内のみ紹介させていただきました。 当初はスタンドアローンでしたが、個人情報の関係やパソコンの管理運営から、センターサーバへシステム移行されています。 データを統合して本の貸し借りを学校間で行うなど運用を広げる場合、センターサーバ方式かクラウドに移行しはじめている現状です。

E委員	実績としても問題ないということですね。
事業者A	システムのベースがセンターサーバが基本になっており、スタンドアローンでもセンターサーバでも同じようなインターフェースで行えるのも我々の一つの特徴です。
B委員	サーバの実績は、今現状で幾つぐらいですか。
事業者A	全実績が3000校以上、センターサーバは学校数で3分の1ぐらいです。以前はネットワークの関係もあり、スタンドアローンでないと導入できないこともありましたが、徐々にインフラも整備され、特にデータセンター自体をどこか別の会社でご契約され、そこに教育系のシステムを集約する流れの中で、図書もセンターサーバに移行する事例が増えてきております。
全員	(事業者Aの二次審査終了、退出) (採点)
事業者B	【二次審査】(2) <事業者Bのプレゼンテーションとデモンストレーション> <事業者Bのヒアリング>
B委員	保守の体制として、保守する方はどこにいらっしゃるのですか。
事業者B	文京区です。 一次受付して実際にプログラムを解析する必要がある場合は、他の拠点と連携をとりながらやっています。
B委員	問合せのサポート、ヘルプデスクとかは。
事業者B	文京区で常駐で行います。 東海地方から西は西日本の拠点で対応しています。
B委員	移行について、専門のツールを開発されているということですが、バーコードを付け直す作業はないのですか。
事業者B	ございません。
C委員	移行データの項目は6項目とのことですが、逆に移行しない項目には何がありますか。
事業者B	予約の情報です。 受付けた予約の情報は含んでおりませんが、データで提出いただけるものでしたら、すべて取り込めます。
C委員	6項目だけでなく、前のデータがある部分は基本的に移行する、項目に差異

	<p>がでた場合はどこかに置いていく、ということによろしいですね。</p>
事業者B	<p>はい。</p>
C委員	<p>例えばマークのデータがない場合は新しく作るとか、マークのデータも違うものでも取り込むことができるということですね。</p>
事業者B	<p>マークの形式がTタイプとUタイプがあり、古いUタイプもそのまま取り込むことができます。</p>
A委員	<p>スケジュールで、運用系のテストがなくて大丈夫なのかと思います。</p>
事業者B	<p>運用テストは移行データのユーザー確認のところではします。</p>
A委員	<p>カスタマイズが100何項目かあったと思うのですが、それが現実的にできる根拠は何なのか、研修やその辺のテストを考えると、ちょっと日程的にどうかと思います。</p> <p>要件に、移行データを使って運用テストをやること、を入れたと思うが、それがないのでは。</p>
事業者B	<p>移行データユーザー確認というのは、移行データをもとにした運用をとらまえたユーザー確認テストという意味合いです。</p> <p>研修は実際にシステムを使って触りながらします。</p>
A委員	<p>それを2週間でやるのですね。</p> <p>運用テストはどのようなことを考えていますか、年度更新まで1サイクルするのか、貸出し程度で終わるのですか。</p>
事業者B	<p>年次更新は考えていません、実際に来年度なので。</p> <p>それ以外は実際に移行したデータを元に、現在お使いいただいているシステムからデータがちゃんと移行されたか、履歴情報もそうです。</p> <p>もしも、システムを止めて紙運用等でぎりぎりまで使った予約情報も移行することを選択された場合には、その情報もちゃんと残っているか確認しテストします。</p>
A委員	<p>港区の職員が1週間ぴっちり入る前提ですか。</p> <p>運用開始間際にいろいろ障害が起きたら困ります。</p> <p>他の自治体はどうだったのでしょうか。</p>
事業者B	<p>スケジュールは、他県の高校59校分とほぼ同じで考えています。</p> <p>別の4システムからの移行で、PC配置が7月の第4週から8月の第3週の頭までかかり、PCが入替わったところから順次貸出返却について運用開始し、そこでテストを兼ねてやっていただき、9月1日の運用開始という形で、切らせていただきました。</p>

A委員	障害はどのくらい起きているものですか、不具合とか。
事業者B	障害が起きるといふより、研修を十二分にやったつもりでも、不慣れな問合せが多いです。
A委員	問合せで、障害を我慢して使い続けているのかわからないですけども、円滑にいけるのかと思います。
D委員	最初に入った時には、TRCマークがそのまま使える形なので、そのまま導入できて、データコレクタで蔵書点検をやるわけですね。それは登録し直さなくていいのですか。
事業者B	蔵書点検は、本が図書室中にあるかどうかで、小学校の場合、システムを通さずに持ち帰って紛失することが多いので。蔵書点検の目的は、本が図書室の中にあるか、システムの中の貸出情報と相違がないかですので、移行とは関係ないです。
D委員	登録はバーコードですので、事業者が変わってもデータ上に登録するのは2週間で大丈夫ということですね、わかりました。蔵書点検は、前はデータ、バーコードを持って来てやったりしていました。それを持っていかなくて良くなるということですね。
事業者B	そうです、図書館システムの近くまで本を持ってこないといけないのが現状だと思います。先生方がシステムを通さずに本を授業に使い、本を持ったまま別の学校に異動してしま場合など、そういったものを追跡して、所在を明らかにして、システムにちゃんと蔵書として登録するのが蔵書点検の効力で、その際にデータコレクタを用います。
B委員	そのハンディにはマスターは入っているのですか、読込ませるだけですか。
事業者B	マスターはシステムの方だけです。
E委員	先ほどの他市のデータ移行の事例がありましたが、実績にその市の名前がないのはどうしてでしょう。
事業者B	提案資料は過去5年以内で、その市の導入年度が7年弱前のためです。
E委員	資料で、学年更新の時に未返却がいる場合には学年更新処理が行えない対策をしておりますと記述があり、これはどういう意味ですか。それで更新ができないのは事務処理が滞ることも想定されますが。
事業者B	学年更新は、本を持ち帰ったまま卒業するのは本がなくなる原因の一つですので、卒業生のみ返却が終わってないといけないようにしています。在校生は、貸出状態のままでも更新が行われます。

E 委員	他の生徒には影響ないということですね、わかりました。
事業者 B	卒業してしまう生徒だけを対象に必ず本を返却させるということで、在校生の学年更新は問題なくやります。
C 委員	契約前に仕様を確定する予定ですが、結構タイトなスケジュールだし、もし契約後でないと仕様が確定できない場合でもできますか。
事業者 B	今回提案にあたり必要機能を一覧で頂戴しており、今このシステムで包含しないか違う形で搭載しているものは、手を入れる準備で考えています。それをベースにやりますので、大きな差異はないと思います。
C 委員	契約後に最終的な確認をしても、問題なく進められるということですね。
事業者 B	はい。
A 委員	要件の移行後のデータ検証の方法は、ユーザーが確認する方法なのですか。データ移行後の検証方法の記載がなくて、すごく心配です。ユーザー確認のところで確認すると言われましたが。統計系のことがあまり書かれていなく、できることだけが書いてあり、港区から出されたもの以外は知らないというようで、それだと困ります。
事業者 B	現在のシステムと移行後のシステムで、違う画面でも同じデータを取り出したい場合、一番わかりやすいのは、現在のシステムで検索した結果等をスクリーンショットで保存しておくことだと思います。新画面を見たときに同じような件数、同じような必要最低限の内容があるか突合して目で確認する、実際の件数等についてはデータベースの中のデータをシステムの的に取り出して突合させるということをやります。
A 委員	そういうところを書いてくださいと最初にうたっているのです。研修もシステム管理者向けと利用者向けの研修をうたっているのですが、もし御社が決定した場合はもう 1 回読んで、これをクリアしないと。
事業者 B	承知しました。
B 委員	スタンドアローン版から移行するためのツールを作られているのですよね。その時にコントロールトータルチェックをしたり、ツールの中にチェック機能があるのですよね。
事業者 B	はい。
B 委員	新規作成でなくノウハウの中にあるので、アピールしなかったのですよね。
A 委員	そういうのがあるのは当然であって、人的なところは人が変わったり体調悪いときなど変わるが、数値は絶対なので数値で突合するとかということをも

<p>全員</p>	<p>文化してほしかったです。</p> <p>(事業者Bの二次審査終了、退出) (採点)</p> <p>【採点結果集計】</p>
<p>事務局</p>	<p>二次審査の集計結果は、事業者Aが796点、事業者Bが724点でした。これを一次審査の集計結果と加算し、第1位が事業者Aで2,524点、第2位が、事業者Bで1,998点という結果になりました。</p> <p>【審査講評】</p>
<p>A委員</p>	<p>採点結果を踏まえて各委員から審査講評、意見や感想などをいただきます。</p>
<p>B委員</p>	<p>事業者Aの方が、提案書も、説明も今日のプレゼンも全体的にまとまっていて、事業者Bの方はちょっと心配になる部分がプレゼンにもありました。特に保守等の体制のところではちょっと心配だと思いました。機能的にはそんなに両者とも変わらないと思います。ただ今回パッケージを選ぶということであれば、やはり事業者Aは実績があり信頼性があるということで、私の点数に反映されていると思います。</p>
<p>C委員</p>	<p>私は一次と二次で逆の結果で、一次は、事業者Aが良くて事業者Bが劣っていると思いました。二次に関してはほぼ変わらず、どちらでもいいと思いました。ただ短期間の中でやり切るとか、意気込みだけはしっかりあったので、そこを意欲として買ったぐらいです。蔵書点検もピットやるだけなど工夫しているシステムと、これまで王道を歩いてきたシステムという感じで、どちらも甲乙つけがたいと思います。短い期間だけでもなるべくしっかりやろうとしているところは評価をさせていただきます。</p>
<p>D委員</p>	<p>子どもが使うとか子どもに調べ学習をさせるという意味では、プレゼンは事業者Bの方がよかったと思いました。ただ資料にもないし、どの程度わかっているのかがわからなかったので、若干ですが、私は事業者Aが高いです。</p>
<p>E委員</p>	<p>事業者Aの方が全国で展開していて、システムとして洗練されていると思います。期間的にも、限られた期間内で確実な対応が可能と思いました。プレゼンもそつがなく、画面に資料のページを掲載し、慣れている感じでした。事業者Bの方は文字が見えづらく、プレゼンテーションとデモンストレーションがだぶっている気がしました。組立てがうまくないのと、質問にすぐ応じないことが何度かあって、他の2人がフォローできていれば、まだ印象も違ったでしょう。</p>

A委員	<p>ちょっと危ういと思う次第です。 1点だけ、事業者Aの方でB委員から保守料が少し高い、とご意見をいただいています。 仕様で変更可能な余地があるのかと、事業者に金額変更の余地があるか確認したほうが良いという気がします。</p> <p>AB変わらないと思いました。 差をつけたのは提案の実現性で、特に移行は、事業者Aはすべてのデータをやり切ると言っていました。 統計も含めてすべてのデータで、それは重要です。 事業者Bは、移行は港区から出したものしかやらないと見えました。 ツールがあると思うのですけれども。 確実に移行できるということと、使いやすい操作性、たくさん売れてるパッケージだったらまず間違いないと、若干事業者Aを良くつけました。</p>
A委員	<p>【事業候補者の決定】</p> <p>ただいま各委員の皆様から幅広い視点からの講評をいただきました。 集計結果及び講評の内容を踏まえ最終的に事業者候補者と次点者を決定します。 点数の変更がある人はいますか。</p>
全員	<p>大丈夫です。</p>
A委員	<p>では最も多く点数を獲得した事業者Aを事業候補者に、2番目の事業者Bを次点者といたしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
全員	<p>異議なし。</p>
A委員	<p>それでは、事業者Aを事業候補者に、事業者Bを次点者に決定いたします。</p>
B委員	<p>次点者について、1位と2位の点数が何%かでだめというのはありませんか。</p>
事務局	<p>ありません。</p>
事務局	<p>【その他】</p> <p><事業候補者名を発表> 事業候補者として決定したのは、事業者Aの岡山情報処理センターという事業者です。</p> <p><事務局から今後のスケジュールを説明></p> <p>【閉会】</p>